

開講科目一覧

【前期開講科目】

科目名：総合医薬品化学特論（棚橋、西村、土反、西山、和田、山野、宮田、上田）

コード：15A510

（科目等履修生単位 2 単位）〈エクステンションセンター研修単位 15 単位〉

【棚橋教授（2 コマ）、西村講師（2 コマ）】

講義内容

医薬品には、高等植物や微生物の生産する二次代謝産物およびそれらをリードとし合成されたものも多い。本特論では、アルカロイドおよびテルペノイドを例にあげ、

- (1) 有機化学的およびスペクトル的手法を用いた天然有機化合物の構造決定法、
- (2) 不斉反応を用いた天然有機化合物および関連化合物の化学合成法について解説し、医薬品創製における天然物有機化学の意義について述べる。

【土反准教授（2 コマ）、西山講師（1 コマ）】

講義内容

薬用植物からは多種多様な生理活性物質が単離され、現在にも多くが医薬品として用いられている。本特論では、それら化合物について下記に示した内容を解説する。

- (1) 植物体内での生合成と輸送蓄積機構
- (2) 天然物から薬効が期待される化合物の単離及び構造決定

【和田教授（2 コマ）、山野准教授（2 コマ）】

講義内容

創薬化学は薬学部における根幹をなす学問であり、有機化学や合成化学がどのように駆使されているかを理解することが重要である。本講義では、有機化学を利用した医薬品合成のために、下記に示した基本的な事項の講述後、実際の医薬品合成がどのように行われているかを解説する。

- (1) 逆合成の基本
- (2) 有機化学の創薬化学への応用
－選択的合成、不斉合成－
- (3) 医薬品合成の具体例

【宮田教授（2 コマ）、上田准教授（2 コマ）】

講義内容

薬の作用を分子および原子レベルで理解することを目的として、基礎的な有機化学の考え方を導入しながら、医薬品の化学的性質、作用機序および合成法等の「薬の科学」を講述する。具体的には、インフルエンザ治療薬を例にとり、下記の点を概説する。

医薬品の化学的性質

医薬品の化学的性質を理解するために必要な基礎的な有機化学を学ぶ。

医薬品の作用機序

医薬品の作用機序について有機化学的側面から解説する。

医薬品合成法

既存のインフルエンザ治療薬の合成法を概説する。

さらに、有効な医薬品の候補となる化合物を効率的に探索するために用いられる合成手法を平易に解説する。特に触媒量で結合形成反応が可能である金属触媒を使用する反応について、その多様性と意外性を概説する。

成績評価方法

出席、講義中の質疑応答、レポートにより評価する。

科目名：病態解析治療学特論（加藤、多河、藤波、吉野、水谷、八巻、棚橋、江本、八木、平井、南）

コード：15A530

〈科目等履修生単位 2単位〉〈エクステンションセンター研修単位 15単位〉

【加藤教授（2コマ）、多河講師（1コマ）、藤波講師（1コマ）】

講義内容

臨床薬剤師は、様々な疾病を臨床検査学的に理解するとともに、治療に際しての最適な薬物を選択できる能力を臨床現場で発揮する必要がある。そのためには疾病の基本的な理解とともに、薬物治療における治療効果や副作用に関する臨床検査値の動向を詳しく理解しておく必要がある。本特論では、実際の臨床検査データから病態を診断し、その重篤さを読み取り、適切な治療を行える能力を養うために必須な検査項目を解説する。

【吉野教授（2コマ）、水谷准教授（1コマ）、八巻講師（1コマ）】

講義内容

- (1) 関節リウマチなどの自己免疫疾患の病態について学び、これら疾患に用いられている薬物の治療効果、作用機序、副作用などについて理解する。
- (2) 免疫疾患に用いられている抗体医薬品の化学的特徴を踏まえ、臨床における作用機序、治療効果、副作用などの問題点について述べる。
- (3) 気管支喘息などのアレルギー疾患の発症機序について理解するとともに、治療薬の種類、作用機序、副作用について学ぶ。

【棚橋准教授 (3 コマ)】

講義内容

消化器疾患、がん、生活習慣病に関わる異常を中心として、その疾患を引き起こすメカニズムや、症状・合併症の基本となる病態を分子生物学的に深く学ぶ。さらに、適切な薬物療法・非薬物療法の選択と提供すべき情報について、臨床薬剤師として必要な理解を深めることを目的とした講義を行う。

【江本教授 (1 コマ)、八木講師 (1 コマ)、平井客員教授 (1 コマ)、南客員教授 (1 コマ)】

講義内容

効果的な薬物治療を提供するためには、疾患や疾患がもたらす様々な症状に対する理解と、薬物の作用に関する知識をバランスよく身に付けることが重要である。本科目では、臨床的に遭遇する可能性が高い代表的な疾患を題材として、解剖生理から病態、治療までを総合的に理解することを目標とする。薬学を履修していない学生にも理解できるよう、実際の症例や検査データを利用して授業を進めていく。

成績評価方法

出席状況、発表への参加、レポートで総合的に評価する。

開講科目一覧

【通年開講科目】

科目名：医療薬科学研修特論

(前期：集中講義 後期：濱口、杉山、沼田、田内、韓、渡)

コード：15C510

(科目等履修生単位 2単位) (エクステンションセンター研修単位 15単位)

<前期>

【開講日：平成27年5月24日(日)、5月30日(土)、5月31日(日)】(9コマ)

講義内容

最新の医学・医療情報に基づくテーマ「代謝・免疫疾患の基礎と臨床」に即した講義(6コマ)及び最近話題となっているテーマを取り上げる「トピックス」(3コマ)から成る。各分野の最前線で活躍されている医師、薬剤師、その他医療関係者を講師に迎え、実務に役立つことを意識した講義を行う。

成績評価方法

出席とレポートにより評価する。

<後期>

【濱口教授、杉山教授、沼田教授、田内教授、韓臨床特命教授、渡臨床特命教授】(6コマ)

講義内容

患者の Quality of Life を改善し、はっきりとした結果をもたらす薬物治療を、責任をもって遂行することが薬剤師に必要とされている。これらの結果には、疾病の治療や進行を止めたり遅らせたりすること、症状の除去・軽減または予防等がある。薬剤師はこのプロセスを通じて、患者や他の医療従事者と協力し、当該患者に特定の治療効果をもたらす治療方針を提案しモニターすることになる。そこで、最新の医学情報に基づく解説を行い、臨床現場で実践している内容を呈示し、臨床で活躍できる薬剤師としての能力・資質向上を目的とした講義を行う。

テーマ

- (1) 医薬品の製剤学的評価 (濱口)
- (2) がん化学療法に薬剤師がいかにかかわるか (杉山)
- (3) 緩和ケアにおける全人的ケア (沼田)
- (4) 漢方医学と漢方薬の臨床 (田内)
- (5) 病院薬剤師業務について (韓)
- (6) 医療安全と調剤 (渡)

成績評価方法

出席状況及びレポートによって評価する。
